

## (5) 学生実習が看護師に与える影響

谷 口 ひ ろ 子

(5) THE INFLUENCE OF STUDENTS PRACTICE ON NURSE' S CLINICAL CARE :  
FROM THE VIEWPOINT OF THE CLINICAL INSTRUCTOR

Hiroko TANIGUCHI

## 学生ができないのは当然のこと

1. 「学生はできない」と言っている実習指導者が自らの問題と向き合う過程は、精神科看護に求められている基本的な作業である。
2. 指導者が自らの問題に気づいたとき、学生に有意義だと感じてもらえるような実習が可能となる。

## 学生の傾向

1. 対人関係技術や感情面のサポートを必要とする学生が増加している。
  - (1) 拒否されたと感じたとき
  - (2) 陰性感情を抱いたとき
  - (3) 未解決な問題が浮上したとき
  - (4) できない自分を認められないとき

## 精神科看護の基本的な作業

1. 自分の傾向を知る。
  - (1) 嫌な自分、できない自分と向き合う
  - (2) 認める
  - (3) 防衛機制を知る
  - (4) なぜ陰性感情を抱いたのか

## 新人教育の必要性を痛感

1. 対人関係に戸惑い、何もできない不全感に陥っている多くの学生たちから、新人教育を体系化する必要性

を感じた。

2. 学生をサポートすることが、指導者やスタッフの成長を促した。

## 実習オリエンテーションの実施

1. 実習前から対人関係をトレーニングする必要性から考案された。
  - (1) 学生に体験から学ぶ場を提供
  - (2) ロールプレイング演習
  - (3) 入院中の患者に一言、声をかける
  - (4) 指導者と顔見知りになっておく

## 看護職員教育の原点

1. 学生のサポートから新人やスタッフ、患者とその家族のサポートへと発展している。
2. ひとつひとつがバラバラではなく、手をつなぎ合って看護の質を向上させている。
3. この経緯から当院の看護職員教育の原点は、学生実習へのサポートと言える。
4. 学生はできないのが、当然だが、理解が深まる速度や広がりには追いつけない。
5. 学生の患者を理解しようとする姿勢から、いつも学んでいる。

(平成16年1月27日受付)

(平成16年7月16日受理)

北仁会旭山病院 Asahiyama Hospital 看護部

Address for reprints : Hiroko Taniguchi, Department of Nursing, Asahiyama Hospital, 4-3-33  
Futagoyama, Chuo-ku, Sapporo Hokkaido 064-0946 JAPAN

e-mail : ah2000@dream.ocn.ne.jp

Received January 27, 2004

Accepted July 16, 2004